

# 第1部

## 調査の概要



## 第1章 アンケート調査の概要

### 1. 調査の種類と対象者

本調査では、以下の6種類の調査を実施している。

#### ■調査の種類と対象者

調査種別		対象者	抽出方法
市民調査	①市民一般調査	65歳以上の市民 2,600人 40～64歳の市民 1,000人 計3,600人 ※要支援・要介護認定者を除く	平成28年10月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出
	②要支援・要介護認定者調査	居宅サービス利用者 1,500人 施設サービス利用者 500人 サービス未利用者 500人 計2,500人 ※65歳以上の市民	介護保険居宅サービスを受けている方、介護保険施設サービスを受けている方、要支援・要介護認定者のうち介護保険サービスを利用していない方から無作為抽出
	③日常生活圏域ニーズ調査	要支援1、2の認定者 1,000人 要支援・要介護認定を受けていない高齢者 1,500人 計2,500人 ※65歳以上の市民	平成28年10月1日現在の住民基本台帳及び介護保険サービス利用者から無作為抽出
事業者調査	④介護保険サービス提供事業者調査	市内で介護予防・居宅介護サービス、施設サービスを提供している全事業所（208事業所）	悉皆
	⑤介護支援専門員（ケアマネジャー）調査	市内の居宅介護支援事業所に在籍するケアマネジャー全員（174人：59事業所）	悉皆
	⑥医療と介護の連携：医療関係者調査	市内の医療関係機関に所属する医師・看護師等の医療従事者 425人	市内の診療所・病院、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション ※小児科等を除く

## 2. 各調査の概要

### 1 市民一般調査

#### (1) 調査の目的

市民の健康づくりの取組状況や生活習慣、認知症等についての意識、社会活動への参加状況等を把握するとともに、要支援・要介護認定を受けていない高齢者の意識と生活実態を把握し、サービスの潜在需要や介護予防の具体化に向けた方策などを検討する。

#### (2) 調査対象

65歳以上の市民（要支援・要介護認定者を除く） 2,600人  
 40～64歳の市民（要支援・要介護認定者を除く） 1,000人  
 平成28年10月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出

#### (3) 調査方法

郵送配布・郵送回収（督促礼状1回送付）

#### (4) 調査時期

平成28年10月28日～11月15日

#### (5) 回収率

区分	発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
65歳以上	2,600	1,870 (71.9%)	1,869 (71.9%)
40～64歳	1,000	494 (49.4%)	492 (49.2%)
合計	3,600	2,364 (65.7%)	2,361 (65.6%)

## (6) 調査項目

調査項目	問番号	設 問
調査票記入にあたって	-	調査票の記入者
A 基本属性	F 1	性別
	F 2	年齢
	F 3	世帯の状況
	F 3-1	同居者の年齢が65歳以上か
	F 4	日中独居の状況
	F 5	一番よく行き来する人の所までの移動時間
	F 6	居住地域
B 住まいについて	問1	居住形態
	問2	住まいや住環境で困っていること
C 就労状況について	問3	収入のある仕事の有無
	問4	現在及び今後の就労希望
D 健康づくりや介護 予防などについて	問5	幸福度
	問6	健康状態
	問7	健康診断受診の有無
	問8	健康診断についての考え方
	問9	平日の外出の頻度（主たる目的別）
	問10	治療中の病気の有無
	問11	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無
	問12	介護予防に対する考え（65歳以上のみ）
	問13	介護予防事業の利用状況、利用意向（65歳以上のみ）
	問13-1	介護予防事業の成果（65歳以上のみ）
	問13-2	介護予防サービス利用後の継続状況（65歳以上のみ）
	問14	健康や介護予防のために気をつけていること
	問15	市の介護予防に望むこと
問16	住民主体の介護予防活動のために必要なこと	
E 生活習慣について	問17	普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）
	問18	食生活を改善するために必要なこと
	問19	運動習慣を改善するために必要なこと
	問20	こころの健康づくりのために必要なこと
F 認知症について	問21	認知症について知っていること
	問22	認知症予防啓発活動への参加・認知状況
	問23	認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか
	問24	認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと
G 地域生活と日ごろ の活動について	問25	近所づきあいの程度
	問25-1	近所づきあいをしていない理由
	問26	日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け
	問27	地域の支え合いとしてできること
	問28	地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況
	問28-1	参加している活動
問29	これから参加したい活動	
H 災害時の対応につ いて	問30	災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて
	問31	災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの
	問32	災害時に手助けが必要な人にできること
I 情報について	問33	健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先
	問34	暮らしの問題や福祉に関する相談先
J 高齢者保健福祉サ ービスについて	問35	高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向（65歳以上のみ）
	問36	市が優先して取り組むべきサービス

調査項目	問番号	設 問
K 介護保険について	問 37	介護保険サービス利用についての考え
	問 38	介護保険サービスの認知度
	問 39	介護が必要になった時に生活したい場所
	問 40	介護保険制度の全体をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと
L 高齢者の権利擁護 について	問 41	高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度
	問 42	周囲で困っている人（本人を含む）
	問 42-1	困っていること
	問 43	市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度についての意見・要望（自由回答）

## 2 要支援・要介護認定者調査

### (1) 調査の目的

要支援・要介護認定者のサービスの利用状況と利用意向を把握し、サービスの水準の目標設定やサービス提供のあり方などを検討する。

### (2) 調査対象

65歳以上の市民で居宅サービス利用者 1,500人

65歳以上の市民で施設サービス利用者 500人

65歳以上の市民でサービス未利用者 500人

介護保険居宅サービスを受けている方、介護保険施設サービスを受けている方、要支援・要介護認定者のうち介護保険サービスを利用していない方から無作為抽出

### (3) 調査方法

郵送配布・郵送回収（督促礼状1回送付）

### (4) 調査時期

平成28年10月28日～11月15日

### (5) 回収率

区分	発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
居宅サービス利用者	1,500	990 (66.0%)	989 (65.9%)
施設サービス利用者	500	210 (42.0%)	208 (41.6%)
サービス未利用者	500	306 (61.2%)	306 (61.2%)
合計	2,500	1,506 (60.2%)	1,503 (60.1%)

(6) 調査項目

調査項目	問番号	設 問
調査票記入にあたって	-	回答できない理由 調査票の記入者
A 基本属性	F 1	性別
	F 2	年齢
	F 3	要介護度
	F 4	世帯の状況
	F 4-1	同居者の年齢が65歳以上か
	F 5	日中独居の状況
	F 6	居住地域
B 住まいについて	問1	居住形態
	問2	住まいや住環境で困っていること
C 医療について	問3	現在治療中の病気の有無
	問4	かかったことのある病気
	問5	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無
	問6	現在受けている医療処置
D 介護保険について	問7	介護保険サービス利用についての考え
	問8	介護保険サービスは自らが望む生活を送るために役に立っているか
	問8-1	要介護認定の申請をしようと思った理由
	問8-2	介護保険サービスを利用していない理由
	問8-3	現在介護を受けている方法
	問9	介護保険サービスの利用状況、満足度
	問10	自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス
	問11	今後生活したいところ
問12	介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと	
E 利用者本位のサービスのあり方について	問13	現在のケアプランの満足度
	問13-1	ケアプランの不満の内容
	問14	ケアマネジャーに対する満足度
	問15	ケアマネジャーの評価
F 高齢者の権利擁護について	問16	高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度
	問17	周囲で困っている人(本人含む)
	問17-1	困っていること
G 高齢者保健福祉サービスについて	問18	高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向
	問19	民間サービスの利用状況
	問20	市が優先して取り組むべきサービス
H 認知症について	問21	認知症について知っていること
	問22	認知症予防啓発活動への参加・認知状況
	問23	認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか
	問24	認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと
I 日ごろの生活について	問25	幸福度
	問26	日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け
	問27	地域の支え合いとしてできること
	問28	これから参加したい活動
	問29	市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度についての意見・要望(自由回答)
J 主な介護者の状況や意向について (主な介護者が回答)	問30	主な介護者
	問31	主な介護者の年齢
	問32	主な介護者の居住地
	問33	介護している期間
	問34	1日に介護している平均時間
	問35	被介護者が生活するのによいところ

調査項目	問番号	設問
J 主な介護者の状況 や意向について (主な介護者が回 答)	問 36	認知症の診断
	問 37	介護をしていくうえでの問題点
	問 38	介護をしていて良かったと思うこと
	問 39	介護者支援として必要と思うもの
	問 40	市への要望〈自由回答〉

### 3 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

#### (1) 調査の目的

要支援1、2の認定を受けている人及び要支援・要介護認定を受けていない高齢者の家族や生活状況、身体状況や外出の状況、転倒予防の状況等を把握し、生活支援の必要性などを検討する。

#### (2) 調査対象

65歳以上の市民で要支援1、2の認定者 1,000人  
 65歳以上の市民で要支援・要介護認定を受けていない高齢者 1,500人  
 平成28年10月1日現在の住民基本台帳及び介護保険サービス利用者から無作為抽出

#### (3) 調査方法

郵送配布・郵送回収（督促礼状1回送付）

#### (4) 調査時期

平成28年10月28日～11月15日

#### (5) 回収率

区分	発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
要支援1、2の認定者	1,000	793 (79.3%)	792 (79.2%)
要支援・要介護認定を受けていない高齢者	1,500	1,109 (73.9%)	1,109 (73.9%)
合計	2,500	1,902 (76.1%)	1,901 (76.0%)

## (6) 調査項目

調査項目	問番号	設 問
調査票記入にあたって	-	調査票の記入日 調査票の記入者
A 基本属性	F 1	性別
	F 2	年齢
	F 3	要支援認定の状況
	F 4	居住地域
B 家族や生活状況について	問 1	家族構成
	問 2	介護・介助の状況
	問 2-1	介護・介助が必要になった主な原因
	問 2-2	主な介護・介助者
	問 3	経済的にみた暮らしの状況
C からだを動かすことについて	問 4	住まい
	問 5	身体状況
	問 6	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること
	問 7	15分位続けて歩くこと
	問 8	過去1年間に転んだ経験
	問 9	転倒に対する不安
	問 5～問 9	“運動機能の低下している高齢者”
	問 10	外出状況
	問 11	昨年と比べた外出の回数
	問 12	外出を控えているか
問 12-1	外出を控えている理由	
D 食べることについて	問 13	外出する際の移動手段
	問 14	BMI (Body Mass Index (肥満指数) の略)
	問 15	半年前と比べて固いものが食べにくくなったか
	問 16	お茶や汁物等でむせることがあるか
	問 17	口の渇きが気になるか
	問 15～17	“口腔機能の低下している高齢者”
	問 18	歯磨き (人にやってもらう場合も含む) を毎日しているか
	問 19	噛み合わせは良いか
	問 20	歯の数と入れ歯の利用状況
	問 20-1	毎日入れ歯の手入れをしているか
問 21	6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか	
E 毎日の生活について	問 14 及び 問 21	“低栄養状態にある高齢者”
	問 22	誰かと食事をとる機会
	問 23	物忘れの様子
	問 24	自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか
	問 25	今日が何月何日かわからない時があるか
	問 26	バスや電車を使って1人で外出すること (自家用車でも可)
	問 27	自分で食品・日用品の買物をする事
	問 28	自分で食事の用意をすること
	問 29	自分で請求書の支払いをすること
	問 30	自分で預貯金の出し入れをすること
	問 36～30	I ADL (手段的日常生活動作)
	問 31	年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けるか
問 32	新聞を読んでいるか	
問 33	本や雑誌を読んでいるか	
問 34	健康についての記事や番組への関心があるか	
問 31～34	知的能動性	

調査項目	問番号	設問
E 毎日の生活について	問 35	友人の家を訪ねているか
	問 36	家族や友人の相談にのっているか
	問 37	病人を見舞うことができるか
	問 38	若い人に自分から話しかけることがあるか
	問 35～38	他者との関わり
	問 39	趣味はあるか
	問 40	生きがいはあるか
F 地域での活動について	問 41	会・グループ等への参加状況
	問 42	地域づくり活動への参加者としての参加意向
	問 43	地域づくり活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向
G たすけあいについて	問 44	心配事や愚痴を聞いてくれる人
	問 45	心配事や愚痴を聞いてあげる人
	問 46	看病や世話をしてくれる人
	問 47	看病や世話をしてあげる人
	問 48	家族や友人・知人以外で相談する相手
	問 49	友人・知人と会う頻度
	問 50	1か月間に会った友人・知人の人数
	問 51	よく会う友人・知人との関係
H 健康について	問 52	健康状態
	問 53	幸福度
	問 54	1か月間にゆううつな気持ちになったりしたことがあったか
	問 55	1か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか
	問 54～55	“うつ傾向にある高齢者”
	問 56	飲酒の状況
	問 57	喫煙の状況
	問 58	治療中の病気
	問 59	市への要望〈自由回答〉

## 4 介護保険サービス提供事業者調査

### (1) 調査の目的

予防・居宅介護サービス、施設サービスを提供している事業所の運営状況や今後の事業展開、市への意見や要望等を把握し、介護保険制度の適切な運営に向けた方策などを検討する。

### (2) 調査対象

市内で介護予防・居宅介護サービス、施設サービスを提供している全事業所 208 事業所  
悉皆

### (3) 調査方法

郵送配布・郵送回収（督促礼状1回送付）

### (4) 調査時期

平成28年10月28日～11月15日

### (5) 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
208	155 (74.5%)	155 (74.5%)

(6) 調査項目

調査項目	問番号	設 問
A 基本属性	問1	所在地
	問2	提供しているサービス
	問3	職員の職種別、居住地別、勤務形態別の人数
B 今後の事業運営について	問4	昨年度の事業採算
	問5	今後3年間の事業規模
	問6	職員の平均在職年数、離職状況など
C 地域密着型サービスについて	問7	今後参入予定の地域密着型事業
D サービス提供における課題	問8	サービス提供での困難ケースの有無
	問8-1	困難ケースの内容
	問8-2	困難だったケースの相談先
E サービスの質の向上と人材確保に向けた取組	問9	利用者からの信頼を得るために必要なこと
	問10	質の向上に対する取組
	問11	確保の困難な職種
	問12	人材を確保するための取組（現在、今後）
	問13	職員の研修・教育等に関して困っていること
	問14	事業所内での研修の実施状況
	問15	外部の研修等への参加支援の状況
	問16	利用者の自立支援を意識したサービス提供を行っていると思うか
問17	人材の確保・育成や早期離職防止と定着促進のために有効と考える支援策	
F 認知症患者のサービス利用について	問18	認知症の利用者の有無、その人数
	問19	認知症の利用者の状況で実際にあること
	問20	医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法
	問21	認知症患者の支援にあたってのかかりつけ医との連携
	問22	認知症患者の支援に必要なこと
G 医療と介護の連携の状況について	問23	サービス担当者会議を通じた在宅療養者への医療と介護の連携
	問23-1	医療と介護が“連携していないと思う”理由
	問24	退院前（時）カンファレンスへの出席の有無
	問24-1	退院前（時）カンファレンスの頻度
	問25	医療と介護の連携を図るうえでの情報の共有化について〈自由回答〉
	問26	医療関係機関との間での問題やトラブルの有無
	問26-1	医療関係機関との間で発生した問題やトラブルの内容〈自由回答〉
	問27	利用者について関係機関・職種との連携状況
	問28	利用者の医学的な情報の把握状況
	問29	医療機関やかかりつけ医などと連携がとりにくい理由
	問30	医療と介護の連携を図るために必要なこと
	問31	医療と介護の連携で苦勞していること〈自由回答〉
問32	医療関係機関に期待すること〈自由回答〉	
H 災害時の体制について	問33	大規模災害に備えた計画や方針の有無
	問34	災害時に備えた地域との連携の程度
G 市への意向について	問35	事業者として市に望むこと
	問36	介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと
	問37	介護に関する要望〈自由回答〉

## 5 介護支援専門員（ケアマネジャー）調査

### （1）調査の目的

ケアマネジャーの業務の状況や、業務全般の考え、並びに医療と介護の連携の状況等を把握し、介護保険制度の適切な運営に向けた方策や医療と介護の連携の方策を検討する。

### （2）調査対象

市内の居宅介護支援事業所に在籍するケアマネジャー全員 174人：59事業所  
悉皆

### （3）調査方法

郵送配布・郵送回収（督促礼状1回送付）

### （4）調査時期

平成28年10月28日～11月15日

### （5）回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
174	122 (70.1%)	122 (70.1%)

(6) 調査項目

調査項目	問番号	設 問
A 基本属性	問1	所属している事業所の所在地
	問2	性別
	問3	年齢
	問4	ケアマネジャー以外の所有資格
	問5	ケアマネジャー業務の経験年数
	問6	ケアマネジャーとして転職の有無
	問7	現在の居宅介護支援事業所での在職期間
	問8	現在の居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数
B ケアマネジャー業務の担当状況について	問9	勤務形態
	問9-1	兼務している業務
	問10	担当している利用者数・居宅サービス計画作成・変更件数
C 担当地域におけるサービスの状況について	問10-1	日常生活圏別、要介護度別の担当利用者数
	問11	量的に不足しているサービス、ケアプランに組み入れにくいサービス
	問12	在宅生活を支えるために今後充実が必要と感じる介護支援
	問13	今後充実が必要と感じる生活支援
	問14	介護保険以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことの有無
	問14-1	ケアプランに加えた高齢者保健福祉サービス
	問14-2	ケアプランに加えたインフォーマルサポート
問15	今後一層の充実が必要と思う高齢者保健福祉サービス	
D サービス提供事業所等との関わり	問16	ケアプランに沿って、実際のサービス提供を依頼できる事業者数
	問17	サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整の方法
	問18	ケアプラン作成時の医療機関等からの情報収集の状況
E サービス担当者会議について	問19	サービス担当者会議への参加状況
	問20	サービス担当者会議の開催にあたって困難と感じること
	問21	主治医、利用者や家族等がサービス担当者会議に参加しない理由
F 地域包括支援センターの役割について	問22	地域包括支援センターの役割に対する評価
G サービス利用者の在宅医療の状況について	問23	往診が必要な利用者の有無、必要な人数
	問24	訪問診療が必要な利用者の有無、必要な人数
	問25	往診や訪問診療が十分行われているか
	問25-1	往診、訪問診療が不十分だと思ふ理由
	問26	訪問看護、訪問歯科診療、訪問服薬管理指導が必要と思われる利用者の有無、人数
	問27	在宅療養高齢者の急変時の医療機関へのスムーズな移行について
	問28	高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能
H 認知症患者のサービス利用について	問29	認知症の利用者の有無、診断の状況
	問30	認知症の利用者の状況で実際にあること
	問31	医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法
	問32	認知症患者の支援にあたってのかかりつけ医との連携
	問33	認知症患者の支援に必要なこと
I 医療と介護の連携の状況について	問34	サービス担当者会議を通じた在宅療養者への医療と介護の連携
	問34-1	医療と介護が“連携していないと思う”理由
	問35	退院前(時)カンファレンスへの出席の有無
	問35-1	退院前(時)カンファレンスの頻度
	問36	医療関係機関との間での問題やトラブルの有無
	問36-1	医療関係機関との間で発生した問題やトラブルの内容〈自由回答〉
	問37	利用者について関係機関・職種との連携状況
	問38	医療と介護の連携で苦勞していること〈自由回答〉
	問39	医療関係機関に期待すること〈自由回答〉

調査項目	問番号	設問
J ケアマネジャー業 務全般について	問 40	自立支援に向けたケアプランの作成状況
	問 40-1	不十分だと思う理由〈自由回答〉
	問 41	ケアマネジャー業務を行ううえでの課題
	問 42	ケアマネジャー業務の中で負担を感じていること
	問 43	ケアプランを作成するうえで困った時の相談先
	問 44	相談内容
	問 45	ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取組、今後行いたい取組
K 市への意向につい て	問 46	利用者への情報提供の際の課題
	問 47	ケアマネジャーとして市に望むこと
	問 48	介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと
	問 49	介護保険に関する要望等〈自由回答〉

## 6 医療と介護の連携：医療関係者調査

### (1) 調査の目的

医療機関（病院・診療所、歯科診療所、保険薬局）及び訪問看護ステーションにおける市民への在宅療養の取組状況や医療と介護の連携の状況等を把握し、医療と介護の連携の方策などを検討する。

### (2) 調査対象

市内の医療関係機関に所属する医師・看護師等の医療従事者 425人  
 市内の診療所・病院、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション  
 ※小児科等を除く

### (3) 調査方法

郵送配布・郵送回収（督促礼状1回送付）

### (4) 調査時期

平成28年10月28日～11月15日

### (5) 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
425	279 (65.6%)	279 (65.6%)

(6) 調査項目

調査項目	問番号	設 問
A 基本属性	問 1	所属している医療関係機関
	問 1 付問	所属している医療関係機関のスタッフ数
	問 2	職種
	問 3	医療関係機関の所在地
B 在宅療養支援への 取組状況について	問 4	職種別在宅療養支援の取組状況
C 医療と介護の連携 の状況について	問 5	医療と介護の連携の必要性
	問 5-1	必要でないとする理由
	問 6	在宅療養者への医療と介護の連携の状況
	問 6-1	“連携していないと思う”理由
	問 7	退院前(時)カンファレンスやサービス担当者会議への出席の有無
	問 7-1	退院前(時)カンファレンスやサービス担当者会議の頻度
	問 8	介護サービス事業者とのトラブル
	問 8-1	介護サービス事業者との間で発生した問題やトラブルの内容〈自由回答〉
	問 9	関係機関・職種との連携状況
	問 10	在宅医療についての考え
	問 10-1	どのように関わりたいか〈自由回答〉
問 11	医療職と介護職が連携するために充実するとよいこと	
D 医師の取組状況	問 12	(医師) 地域連携部署の設置状況
	問 12-1	(医師) 地域連携部署の活動内容
	問 13	(医師) 他科・他の医療機関との連携
	問 14	(医師) 在宅療養支援診療所の届出
	問 15	(医師) 行っている在宅医療
	問 16	(医師) 介護関係者との情報交換の機会
	問 17	(医師) ケアプランの送付と受け取りの必要性
	問 18	(医師) 介護保険制度・介護保険サービスの理解
	問 19	(医師) 担当患者のうち認知症の症状がある人の割合
	問 20	(医師) 認知症の症状がある人を治療するときに困ること
	問 21	(医師) 認知症専門医への紹介
	問 21-1	(医師) 認知症専門医への紹介の目的
	問 21-2	(医師) 認知症専門医の種類
	問 21-3	(医師) 認知症専門医に紹介するときに問題になること
問 22	(医師) 認知症や認知症の介護に関する研修受講の意向	
E 歯科医師の取組状 況	問 23	(歯科医師) 在宅療養支援歯科診療所の届出
	問 24	(歯科医師) 訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施
	問 24-1	(歯科医師) 訪問時の口腔衛生指導の実施
	問 24-2	(歯科医師) 歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導の実施
	問 24-3	(歯科医師) 訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元
	問 24-4	(歯科医師) 訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療
	問 25	(歯科医師) 今後の訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施の可能性
	問 26	(歯科医師) 在宅療養者のかかりつけ医との連携
	問 26-1	(歯科医師) 在宅療養者のかかりつけ医と連携していない理由
問 27	(歯科医師) 在宅療養者のケアマネジャーとの連携	
F 薬剤師の取組状況	問 28	(薬剤師) 在宅患者訪問薬剤管理指導の届出
	問 28-1	(薬剤師) 在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者の有無、人数
	問 28-2	(薬剤師) 在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者がいない理由
	問 28-3	(薬剤師) 医師との連携状況
	問 28-4	(薬剤師) 処方箋以外の連携の手段
	問 29	(薬剤師) 在宅療養支援診療所の処方箋の取り扱い状況の有無、人数
問 30	(薬剤師) 在宅療養者のケアマネジャーとの連携	

調査項目	問番号	設問
G 看護師の取組状況	問 31	(看護師) 在宅療養支援の活動状況
	問 31-1	(看護師) 在宅療養支援の活動内容
	問 32	(看護師) 介護関係者との情報交換の機会
	問 33	(看護師) 介護保険制度・介護保険サービスの理解
H 訪問看護師の取組状況	問 34	(訪問看護師) 在宅医療を実施している医療機関との連携
	問 34-1	(訪問看護師) 在宅療養実施医療機関との連携が取れていない理由
I 医療ソーシャルワーカー (MSW) の取組状況	問 35	(MSW) 地域連携活動の内容
	問 36	(MSW) 介護保険施設からの患者の受入れ、転帰、施設に戻ったケースの人数
	問 37	(MSW) 介護保険施設との連携
J 医療と介護の連携の状況について	問 38	医療と在宅介護の連携で苦労している点〈自由回答〉
	問 39	介護従事者に期待すること〈自由回答〉
K 地域包括ケアシステムに向けた医療と介護の連携について	問 40	医療と介護の連携が進むために必要なこと
	問 41	医療と介護の連携についての意見・要望〈自由回答〉

### 3. 報告書を利用するにあたって

- 図・表中のn、回答者数とは、基数となる実数のことである。
- 回答はn、回答者数を100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 図・表中の－は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 質問において、年齢別、要介護度別など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果の図・表については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- 居住地域については、以下の6地区とした。

地区名	該当する町名
第1地区	多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台1～3丁目、若松町、浅間町、緑町
第2地区	白糸台4～6丁目、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政
第3地区	天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町
第4地区	宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、宮西町、片町
第5地区	日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町1～2丁目、本宿町3～4丁目、西府町3～4丁目、東芝町
第6地区	美好町3丁目、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町1～2丁目、西府町1～2、5丁目

- 表中の要介護度別は、次の3区分とした。  
要介護度別：要支援者…要支援1～2、軽度者…要介護1～2、中重度者…要介護3～5

## 第2章 グループインタビュー調査の概要

### (1) 調査の目的

在宅で療養生活を送っている要支援・要介護認定者の在宅生活の状況や医療との連携の考え方を把握し、医療と介護の連携の方策などを検討する。

### (2) 調査対象

市内の要支援・要介護認定者のうち、在宅で療養生活を送っている第1号・第2号被保険者の介護者

### (3) 抽出方法

介護保険サービス利用状況から該当者（150人程度）を抽出し、案内を送付したうち、参加可の返信のあった方

### (4) 調査日時、参加人数

	日 時	参加人数
第1回	平成28年11月25日（金）10：30～12：00	3名
第2回	平成28年11月30日（水）13：00～14：30	4名
第3回	平成28年12月6日（火）13：00～14：30	3名

### (5) 調査内容

- ・在宅療養の状況
- ・入退院支援の状況
- ・在宅療養で困っていること
- ・就労の状況
- ・在宅療養を継続するために必要なこと
- ・必要な介護者支援
- ・介護事業者、医療機関、行政への意見

### (6) 調査場所

府中市役所北庁舎3階会議室